

じゅこう

永代経法要 厳修

十月二十五日の十四時と十九時、雨模様でしたが無事に当山の永代経法要をお勤めさせていただきました。

法要に先駆け、午前中には総代、婦人会、年行事の方々が、お掃除から幕張に至るまで、法要準備のお手伝いをしてくださいました。厚く御礼申し上げます。

さて、事前にご案内させていただいたご講師は、枚方の義本弘導先生でした。事前にご連絡をいただいていたのですが、二十二日にお連れ合いさまが往生され、急遽ご紹介いただいた尼崎の中原昭俊先生に交代となりました。亡くなられた坊守さまには住職も長年

お世話になった方でありましたから、寂しさの中でのご法要となりました。

当山では秋が永代経法要です。永代にわたって浄覚寺でお経が勤まっていますという意味の法要です。お経が勤まるということは、浄土三部経の教えが伝わってきているということ。今まで浄覚寺にご縁のあった方々が、本堂を維持し、教えを守り、法要を続けて、お聴



第79号
(通算419号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・11月19日(水)
10時～11時半
- ・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

- ・11月24日(単葉)
12月3日(龍笛)
19時～20時半
- ・参加費1000円

浄覚寺ピアノ教室

- ・11月(金曜日)
7、14、21日

聞を重ねてくださったお陰です。そして伝わってきた仏法を私が聞かせていただくことが法要の肝要となるのです。その中身とは、一つは、阿弥陀さまは全てのいのちを平等に救い取り、必ず仏にさせてみせるという「南無阿弥陀仏」の喚び声となっておられるということ。そのはたらきは私に向けて届いているにもかかわらず、背いてばかりの私こそが救いの目当てであつたということを抑止文「唯除五逆、誹謗正法」の御文からお伝えくださいました。

また、もう一つの中身として、阿弥陀さまの素晴らしさを他の仏さま方が褒め称えておられる、ということを感じました。「十方恒沙、諸仏如来、皆共讚歎、無量寿仏、威神功德、不可思議」全ての仏さま方は「自らが悟りの境地に至ろうとするとともに、あらゆる人々を救おう」という共通の願いを持っておられます。けれど、私はその救いからもれしてしまうような生き方しかできないことでした。そんな私をもらさず、必ず救い取るとはたらく阿弥陀さまが出られた。他の仏さま方は、自分たちにはできなかったことのへ悲しさと、私が救われる喜びの中で阿弥陀さまを褒め称え、お念仏をお勤めくださるのですと聞かせていただきました。

このよび声を聞きひらき

如来の救いにまかすとき

永遠に消えない灯火が

私の心にともります

『浄土真宗の救いのよろこび』



御文章に聞く(第72回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

当流聖人章(五帖第十八通)
当流聖人の・すすめまします安心といは、なにのようもなく・まず、わが身のあさましき罪のふかきことをばうちすて、もろもろの雑行雑修のころをさしおきて、一心に阿彌陀如来後生たすけたまへと・一念にふかくたのみたてまつらんものをば、たとえば・十人は十人・百人は百人ながら・みなもらずたすけたまうべし、これさらに・疑うべからざるものなり、かようによくころえたる人を・信心の行者というなり、さてこのうえには・なおわが身の後生のたすからんことの・うれしさをおもいださんときは、ねてもさめとも・南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏・となうべきものなり、あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。
「雑行雑修」という言葉は『御文章』に何度も用いられる言葉です。自力の心であり、自力の修めた善根によって浄土へ往生しようとする行者自身のはからいことです。
この言葉はもと中国の善導大師が阿彌陀仏の浄土へ往生を願うものが、行ずべき往生行について「正行」と「雑行」とに分別されたことに始まります。「正行」とは、阿彌陀仏の浄土へ往生しようと願うものの「正當な行」ということです。また「正」とは「正直」ということで、目標に対して真つ直ぐに向かっている行という意味です。この「正行」に対して「雑行」という言葉を用いられたのです。「正」に対する字は「邪」です。また、「正直」に対する字ならば「曲」になります。目標に対して、よこしまで、まがりくねった、正当でない行を「雑行」といわれたのです。

仏教語辞典



鎌倉にある海蔵寺の本尊である薬師如来の像が現れる。昔、開山源翁が赤ちやんの泣き声がきこえてお墓を見つけた。やき良い香の起すお墓を見つけた。やき良い香の胎内におさめ、六十一年に一度公開している。

海蔵寺の薬師如来

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。当山の永代経法要を無事に勤めさせていただきました。まずは安堵しております。お世話になり有難うございました。けれど、最近少々参拝者が少なく心配をしております。お寺での法要には読経とともにご法話があります。仏さまの教えを聞かせてもらうのです。お聴聞といいます。浄土真宗はお聴聞に始まり、お聴聞に終わります。お念仏の教えはお聴聞に極まるのです。私のいのちは、いつかはわかりませんが、必ず亡くなります。私はいのち亡くなればお浄土に生まれると聞かせていただき、そのように受けとめています。皆さまはどのようにいのちの解決をされているでしょうか。他人事ではなく自分のこととして、ぜひお聴聞なさってください。(釋法道)

12月

12月21日(日) 10時〜16時
浄覚寺こども会冬のついで



・十一月十一日(火) 十六日(日)
本願寺津村別院 報恩講並びに親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年慶讃法要
・十一月二十五日(火) 十八時三十分開演
天王寺楽所雅亮会 雅楽公演会
・十一月二十六日(水)、二十七日(木)
久宝寺御坊願証寺 報恩講法要

行事案内